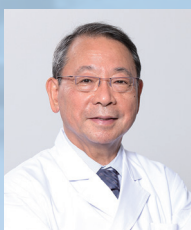


閉経後性器尿路症候群(GSM)の画像診断: 骨盤底加齢を診る



座長 **太田 博明** 先生

(日本女性医学学会名誉会員 / 国際医療福祉大学臨床医学研究センター教授 /
山王メディカルセンター女性医療センター長)



演者 **奥田 逸子** 先生

(国際医療福祉大学三田病院 放射線診断センター 准教授)

川崎医科大学卒業。2010 年より国際医療福祉大学三田病院放射線診断センター准教授。聖マリアンナ医科大学、慶應義塾大学医学部、東京医科歯科大学、鈴鹿医療科学大学を兼務しご活躍されている。マンモグラフィや MRI における乳腺画像、CT や MRI による頭頸部および胸部画像などを中心とする画像診断に従事。さらに、見た目の加齢変化と筋肉、脂肪の関係性や骨盤底の加齢変化など幅広い分野において、画像診断に基づいた診断の研究を積極的に行っている。

近年の画像診断装置や画像解析装置の発達に伴ない、疾患の診断だけでなく、体内の既存構造物の状態を容易に把握できるようになった。婦人科・泌尿器領域における内外性器と尿路の疾患の診断は重要なことは言うまでもないことであるが、それらの CT・MRI の画像内には同時に骨盤底の加齢変化も描出されている。

閉経後性器尿路症候群 (Genitourinary syndrome of menopause: GSM) は分娩や加齢などとの関わりが強い。加齢とともに骨盤内臓器等は下垂するが、その詳細な画像所見は明らかにされていない。MRI は組織コントラストが高く、GSM を画像診断学的に診る有用な手段である。骨盤底下垂の解剖学的に要因である骨盤底筋の変化や骨盤内臓器の状態を捉えることができる。さらには、GSM の治療評価に応用されるようになってきた。

本講演では、骨盤内臓器や骨盤底の正常解剖や画像所見を提示するとともに、加齢性変化に関する画像所見について概説する。

ランチョンセミナーはチケット制となります。

チケット配布の詳細は、ホームページまたはプログラム・要旨集にてご確認ください。

第 33 回 日本女性医学学会学術集会 / DKSH ジャパン株式会社